

令和7年度 北海道大学低温科学研究所 共同研究集会

日時：2026年1月26–27日

課題名：世界の氷河変動プロセスの理解と次世代の研究アプローチ

現地会場：低温科学研究所 3階講堂

低温研までのアクセス：<https://www2.lowtem.hokudai.ac.jp/about.html#5>

プログラム：

一日目（1月26日）

13:00–13:10 開会の挨拶、趣旨説明、事務連絡

近藤研（名古屋大学）、杉山慎（北海道大学低温科学研究所）

座長：張佳晏

13:10–13:30 UAVを用いたグリーンランド北西部カナック氷河の表面地形と動態解析
矢澤宏太郎（北海道大学）

13:30–13:50 グリーンランド北西部カナック氷帽およびその周辺地域における表面質量収支の数値
実験
今津拓郎（北海道大学）

13:50–14:10 受動マイクロ波低周波輝度温度差を用いたグリーンランド氷床内部構造検出
鈴木拓海（宇宙航空研究開発機構）

14:10–14:30 L-Band SARを用いたフィルンラインの長期観測
有江賢志朗（宇宙航空研究開発機構）

14:30–14:45 休憩

座長：今津拓郎

14:45–15:05 Shortwave Penetration Drives Subsurface Warming and Melt on the Langhove
Glacier, East Antarctica
斉藤潤（北海道大学）

15:05–15:25 飛驒山脈の氷河における質量収支と流動の観測
竹花佑香子（新潟大学）

15:25－15:45 グリーンランド北西部ボードイン氷河における 2025 年の変動傾向
見米富視（北海道大学）

15:45－16:05 南パタゴニア氷原 PioXI 氷河の現地観測報告
平野聖晃（北海道大学）

16:05－16:20 休憩

座長：箕輪昌紘

16:20－16:40 LiDAR surveys for quantifying ice front change at Taku Glacier, Southeast Alaska
張佳晏（北海道大学）

16:40－17:00 2024 年 12 月における南パタゴニア氷原 Pio XI 氷河の観測報告：融解水ブルーム起源
碎屑粒子の特徴について
粕谷拓人（九州大学）

17:00－17:20 アラスカ内陸部・ポーカーフラットにおける凍土動態の監視と将来予測に向けて
阿部隆博（京都大学）

17:20－18:00 ポスター発表コアタイム

カルマンフィルターを用いた GNSS 流動速度データの解析
箕輪昌紘（北海道大学）

東南極ホノール氷河棚氷におけるカービングとそのメカニズムの解明
田中寛人（北海道大学）

東南極テーレン氷河における氷底湖の物理探査
近藤研（名古屋大学）

18:00－ 懇親会（低温研内での立食形式を予定）

二日目（1月27日）

座長：阿部隆博

9:00－9:20 岩屑被覆氷河の熱抵抗値のその後
永井裕人（立正大学）

9:20－9:40 アラスカ山脈から発生するメタンとその起源
紺屋恵子（JAMSTEC）

9:40－10:00 グルカナ氷河における長期微生物群集解析
村上匠（東京科学大学）

10:00－10:20 人工クリオコナイトホールを利用した氷河ジオエンジニアリングプロジェクトの紹介
大沼友貴彦（気象研究所）

10:20－10:35 休憩

座長：近藤研

10:35－10:55 Basal sliding laws and flow laws for ice - sheet and glacier modelling, and why their non-dimensionalization can make modellers' lives easier
Ralf Greve（北海道大学）

10:55－11:15 多チャンネル高解像度 VHF レーダーシステムを用いた新しいアイスコア掘削地点の調査
津滝俊（国立極地研究所）

11:15－11:35 南極氷床縁辺湖からの排水検出
波多俊太郎（国立極地研究所）

11:35－13:00 休憩

座長：大沼友貴彦

13:00－13:20 氷河湖決壊洪水における危険度評価に向けた河川流シミュレーション
大見侑太郎（東京科学大学）

13:20－13:40 全球積雪水量データセットの比較
樋口淳紀（東京科学大学）

13:40－14:00 立山室堂平の積雪面における鉱物粒子組成の空間分布と季節変動
安宅飛明（千葉大学）

14:00－14:15 休憩

座長：有江賢志朗

14:15－14:35 アジア高山地域における雪水資源のパラドックスの検証
鍛冶莉保子（東京科学大学）

14:35－14:55 ランダムフォレストを用いたヒマラヤ高山域の高解像度積雪域推定の試み
菅野翔永（東京科学大学）

14:55－15:15 立山の氷河に関する話題
福井幸太郎（富山県立山カルデラ砂防博物館）

15:15－15:35 総合討論と来年度の予定（司会：近藤研）

15:35－15:45 閉会の挨拶
杉山慎（北海道大学低温科学研究所）